

令和 5 年 4 月 3 日

## 令和 4 年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
上尾市立東小学校	上尾市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立東小学校ウェブサイト 令和 4 年度特別の教育課程の自己評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/higashi-elementaryschool">https://www.city.ageo.lg.jp/site/higashi-elementaryschool</a> .
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	上尾市立東小学校ウェブサイト 令和 4 年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/higashi-elementaryschool">https://www.city.ageo.lg.jp/site/higashi-elementaryschool</a>
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	上尾市立東小学校ウェブサイト 令和 4 年度特別の教育課程の保護者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/higashi-elementaryschool">https://www.city.ageo.lg.jp/site/higashi-elementaryschool</a>

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで A L T の配置や、各校で、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週 2 9 コマ等）などにより、英語教育を推進してきた。また、平成 3 0 年度から、小学校 3 ・ 4 学年で 3 5 時間、小学校 5 ・ 6 学年で 7 0 時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

さらに、令和元年度から、小学校 1 ・ 2 年生においては、学校教育法施行規則第 5 1 条に定められる授業時数以外で、年間 1 0 時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童と A L T が自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的に A L T と触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

現在は、学習指導要領の前面実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組んでいる。

- ア 小学校 1 ・ 2 学年において、1 年生は年間 3 4 時間、2 年生は年間 3 5 時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。
- イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

- (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性  
本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍できる力を育成する。
- ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

- (3) 特例の適用開始日  
令和2年4月1日

- (4) 取組の期間  
無期限

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

- (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている  
・一部、計画通り実施できていない  
・ほとんど計画通り実施できていない

- (2) 実施状況に関する特記事項

- ・小学校第1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
- ・45分授業ではALTと連携し、「触れよう・慣れよう・慣れ親しもう」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・「言語活動の充実を図り、楽しく伝え合う外国語授業の研究」を研究主題として、学校全体として、授業研究に取り組んだ。
- ・授業の1時間の流れを学校全体で統一したり、言語活動の充実を図ったりすることで、児童が、楽しく、自分の思いを英語で伝えられるようにした。

- (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している  
・実施していない

#### <特記事項>

- ・学年だより、懇談会で、英語活動の内容について知らせた。
- ・授業参観では、英語活動の授業を積極的に公開した。

### 4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中9年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校の令和4年度1・2年生に実施した英語活動実態調査・意識調査の結果を分析すると、「英語活動の授業が好きか」の項目で「すき」「まあまあすき」と答えた児童の割合が92%、「英語活動の授業で、進んで英語を話しているか」の項目で「進んで話している」「話している」と答えた児童の割合は87%という高い数値を示しており、本校が目指している子供像に迫ることができている。

また、英語活動で意識している「4つのコミュニケーションルール」(アイコンタクト・クリアヴォイス・スマイル・グッドレスポンス)の効果が、人権意識の向上や豊かな心の育成に良い影響を与えている。

一方で、保護者評価結果を分析すると、「お子様は、ご家庭で時々英語を使って話そうとしている。」の項目で「よくそう思う・そう思う」と答えた保護者の割合が50%「本校の英語活動は、お子様のコミュニケーション能力の育成に役立っている」の項目では、「よくそう思う・そう思う」と答えた保護者の割合が63%であった。授業を公開したり、家庭学習で英語に取り組んだりしたことで、昨年度よりも、数値は、向上している。さらに、今後は、保護者、地域住民、その他関係者に対して、本校の取組について、情報提供を進めるとともに、家庭と連携し、児童が日常生活の中でも、英語を話せるような取組を進めることが課題である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの生きた英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化に触れたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育てている。また、ALTの問いかけに対して、無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図ることができていた。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、互いの考えや気持ちを伝え合うことができる児童が増えているとともに、コミュニケーション能力が着実に育成できており、特例校の取組の効果が表れている。

一方で、児童の中には、英語で話すことに、苦手意識を持っている児童や、自分の気持ちを伝えることが苦手な児童もおり、安心して楽しく学習できるよう、授業改善を図る必要がある。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要であると考えている。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導事例及び教材の活用、また、学校全体としても研修を深め、言語活動の充実を通して児童が、楽しく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を推進していく。